

岡山市立福島小学校の活動報告

担当：忠政

まず、子どもたちは学年始めに、「世界の困っている人々のことを一理解して、かかわろう、実践しよう～」というテーマを設定した。

(人々が本当に「困っている」のか、今の自分の立場から見た主観であるのかは、この時点では、子どもたちには整理がついていない。学習したり活動したりする中で、子どもたちがその点にもついて気がついてくるものと子どもたちの設定に任せた。)

1学期は「理解しよう」を掲げ、調べ学習を進めた。子どもたち一人一人が自分自身のテーマを決めて調べ、各自調べたことを誌上発表をしたのである。

その内容は、次の通りである。

- ・ストリートチルドレン
- ・地雷
- ・戦争
- ・ユニセフ
- ・カンボジア
- ・その他 (WHO、働く子ども、栄養や飢餓、難民生活等)

実際には、「理解する」とまではいかず、ふれた程度であったかもしれないが、子どもたちは頑張つて活動した。

そして、2学期は、「かかわろう」の活動にはいった。

やはり、今までの先輩たちの活動報告を聞いていたからか、まず、カンボジアの皆さんにかかわりたいとの発言が出てきたので、ハート・オブ・ゴールドの田代先生にお願いして来ていただき、活動の概要を教えていただいた。この時点で、子どもたちから、カンボジアの子どもたちとの交流希望もでていた。

そこで、檜尾睦先生が帰国されたおりに学校に来ていただき、カンボジアにおける活動や日本語を懸命に勉強する子どもたちの様子を、ビデオや写真、子どもたちが日本語で話す録音テープ等で教えてもらった。子どもたちは、先生から直接、外国の子どもたちの様子を聞けることが嬉しいようで、大変喜び感動していた。その中で、自分たちには何ができるのか考えたり、手紙を書きたいと言い出したり、格別の思いを抱いたようである。

このお二人のお話を聞くことで、子どもたちの活動意欲は高まり、前にも増して本気で取り組むようになった。「実践しよう」と、まず、自己紹介の手紙(写真付き)を書くことに喜々として取り組んだ。その後、檜尾先生にお話し頂いたことから、①お手紙、②ウォーキング大会に参加されるむつみ日本語教室のみなさんへの応援グッズ③日本語教室のみなさんが学習されるために必要な文房具(ノート、鉛筆、消しゴムなど)集め ④あいうえお表 ⑤教室掲示物の絵 ⑥日本の遊びの紹介 ⑦フェルトの筆箱づくり(日本語教室のみなさん用) ⑧声のお便り(カセットテープ)歌と歌詞付き ⑨募金 に熱心に取り組んだ。喜んでもらいたいという一心で、休み時間もみんなが集まって一生懸命活動するなど、むつみ日本語教室のみなさんのことを大変身近に感じている様子があった。先生からうかがった、「相手の立場に立って」ということを、子ども達は試行錯誤しながらも心に留めて励んだのだ。

3学期早い時期に、上記のできあがった作品や全校に呼びかけて集めた物をカンボジアに送ることができた。

これらの活動を通して、学年当初、困っている人とは、物や人々を巡る環境のこととしてのみ捉えていた子どもたちも、カンボジアの真剣に生きる子どもたちとその笑顔等一端に触れることで人の幸せとは何かを心にかかわらせて考えるようになった。学年末には、自分たちに立ち帰って考えるようになり、今の自分に足りないこと、実は自分は幸せであること等実感して、今自分にできることは何だろうと考えることができた。

ハート・オブ・ゴールドの皆さんには本当に感謝している。